

平成 28 年度 大学評価アンケートの結果について

【回収率】

平成 28 年度に実施したアンケートの回収率は、全体で 79.0%（前年度 80.9%）という結果であった。工学部では 81.8%（前年度 83.3%）、ライフデザイン学部では 72.4%（前年度 75.2%）の回収率となり、いずれの学部も前年度と大きな変動はなかった。

学科ごとの前年比を見ると、安全安心生活デザイン学科で 10.3%増であったが、クリエイティブデザイン学科では 20.3%減という結果となり、学科間の回収率変動に大きな差が見られた。

学学科ごとの対象者数（収容定員と在籍者数）が異なることを理解した上で、あえて全体平均の約 80%を目標に回収率の向上を目指し、今後の教育環境改善に活用していく必要がある。

【設問（新設）：高速データ通信機器（スマートフォン・タブレット等）所持状況】

この設問では 2,141 名中 64.0%（1,370 名）が回答しており、98.5%が何らかの「高速データ通信機器」を所有していることが分かった。一方で、全体の 36.0%（771 名）が「無回答」であったこと、また、他の設問への回答率を見た場合、設問表記に何らかの課題があった可能性もある。高速データ通信機器を所有する学生が大半を占めることには変わりがないものの、さらに回答率を高め調査精度を向上させたい。

【設問 1：大学生生活満足度】

全体の「まあまあ満足」以上は 64.2%で、「大いに不満」は 2.7%であった。「まあまあ満足」以上の数値を学年別に見ると、1 年生 62.3%（前年比▼7.2%）、2 年生 58.5%（前年比△1.5%）、3 年生 66.1%（前年比▼3.4%）、4 年生 73.5%（前年比▼1.4%）で前年度同様 2 年生が最も低い数値である。2 年生の結果で「やや不満」以下の数値を学科別に見ると、知能エレクトロニクス学科、情報通信工学科、環境エネルギー学科、経営コミュニケーション学科の 4 学科で 10%を越えた。特に経営コミュニケーション学科は 1～3 年生で 10%を越えたほか、情報通信工学科では 1 年生で 10%を超えた。2011 年度以降、学科を問わず退学者数が目立つ 1～2 年生については現状の満足度に対し留意する必要がある。また、4 年生では 68.1～100%*と、一定の満足度を得ている。特筆すべきは、2 月に実施された本アンケートにおいて、建築学科 4 年生の満足度が 80%（前年比△20%）と向上した点である。引き続き、全学的に各学年における満足度の向上はもちろん、卒業時における学生の満足度向上も目指す必要がある。

※クリエイティブデザイン学科において、回答総数 2 名中すべてが「まあまあ満足」と回答

【設問 2：学生支援に関する評価】

《教務関連》

「まあまあ良くやってくれる」以上の評価は全体で 64.5%（前年比▼2.1%）であり、学部別では工学部 65.7%（前年比▼2.6%）、ライフデザイン学部 61.3%（前年比▼1.0%）となっている。学年ごとの評価を見ると、前年度同様、卒業を控えた 4 年生で最も高い数値となっている。学科ごとの評価では、全学年を通じて都市マネジメント学科で評価が高いが、経営コミュニケーション学科では 1 年生 70.7%、4 年生で 71.4%と高い

評価になっている一方、2～3年生の2学年で連続して評価が低下している点(2年生 45.2%、3年生 46.2%)が他学科と異なる特徴をもつ。なお、「あまりやってくれない」以下の評価は全体で 5.3% (前年比△0.6%) となっており、学科間の差が顕著であった。

《課外活動・奨学金関連》※平成 28 年度、奨学金について表現追加

「まあまあ良くやってくれる」以上の評価は全体で 50.7%であり、工学部では 50.0%、ライフデザイン学部では 52.4%という結果だった。学科ごとに見ると、安全安心生活デザイン学科で 55.6%と高い評価があったが、他学科については概ね全体の評価に準じた結果だった。学年ごとの評価は、全体として 3年生が 54.1%と高い評価であった。同様の結果が各学科にも見られ、8学科中 5学科において 3年生の評価が高い。

本設問については、課外活動・奨学金に限った表現となっており、実態上は情報発信(周知)と手続きに対する支援に留まってしまう恐れがあり、次年度は設問表現の検討を要す。

《就職支援》

「まあまあ良くやってくれる」以上の評価は 52.0% (前年比▼4.8%) であり、工学部では 52.2% (前年比▼5.8%)、ライフデザイン学部では 51.3% (前年比▼2.3%) という結果であった。3～4年生における全体の評価をみると、3年生 71.3% (前年比▼5.6%)、4年生 69.1% (前年比▼3.1%) となっている。一方、「あまりやってくれない」以下の回答者は、3年生 3.4%、4年生では 2.3%にとどまっている。3～4年生で「利用したことがない」と回答した者は 893 名中 6 名であり、ほぼすべての者が何らかの支援を受けていることになる。

《ウェルネスセンター》

回答者のうち、61.5% (前年比△2.6%) が保健室あるいはカウンセリングルームを利用している。回答者 2,141 名中 818 名が「利用したことがない」と回答していることから、「健康診断結果」の受け取りは含まず、純粋に体調不良やカウンセリングルームの利用を意識した回答が多かったと予想される。前年比で利用者の割合が増えている中、利用経験者のうち「まあまあ良くやってくれる」以上の評価は 52.1% (前年比△0.2%)、「ふつう」以上の評価でも 96.4% (前年比▼0.6%) だったことから、前年水準を維持していることが分かる。

【設問 3：施設設備に関する評価】

《教室環境》

八木山キャンパスについては「ふつう」以上の評価は 93.2% (前年比▼2.1%)、長町キャンパスについては「ふつう」以上の評価は 94.8% (前年比△0.9%) となった。不満に関する自由記述では、「冷暖房設備があまりよくない」「黒板が小さい」「履修人数に対し席が少ない(教室が狭い)」という、前年同様の意見が見られた。

《研究室》

「ふつう」以上の評価を見ると、八木山キャンパスでは 56.2% (△1.6%)、長町キャンパスで 75.7% (△0.3%) という結果となった。不満の理由については《教室環境》に関する設問同様、冷暖房設備やスペースの問題のほか、「通信環境」への不満や「聞きたいことが聞けない」といった回答があった。

《図書館》

附属図書館本館(八木山)は「ふつう」以上の評価が 91.3% (前年比▼1.8%)、分館(長町)は 91.7% (▼1.1%) という結果となった。不満理由としては、休日や週末の開館や開館時間の延長を求める意見、蔵書数に対する不満が多かった。

《食堂・売店》

「ふつう」以上の評価を見ると、八木山キャンパスでは 52.8%（前年比△3.9%）、長町キャンパスでは 86.3%（前年比▼1.1%）という結果となった。八木山キャンパスについては、後述の「最も改善してほしい施設」で過半数が「食堂・売店」を挙げている。一方で、自由記述回答では長町キャンパスについても賛否があり、各々が改善可能な事案に着手していくことを期待したい。

《運動施設》

両キャンパスとも評価は高く、「ふつう」以上の評価は、八木山キャンパスで 90.6%（前年比△0.9%）、長町キャンパスで 91.7%（前年比△0.8%）であった。自由記述回答では施設のメンテナンスに対する要望が目立った。

《バスや駐輪場等》

八木山キャンパスで「ふつう」以上の評価は 80.6%（前年比△4.5%）、長町キャンパスでは 53.0%（前年比△1.3%）、全体でも 72.9%（前年比△3.5%）という結果であった。概ね、八木山キャンパスと比べ、長町キャンパスの利便性が低いという評価については前年同様の傾向である。不満要因を自由記述回答を見ると、「(仙台市営・宮城交通の) バスの本数が少ない」「シャトルバスの運行数が少ない」「駐輪場に屋根がない」「駐輪場の利用マナーが悪い」といった意見があったほか、「車通学」への要望など、キャンパス共有の要因が見受けられた。

総じて、学生にとっての施設設備に対する改善要望は、八木山キャンパスでは「食堂・売店」、長町キャンパスでは「バスの便・駐輪場」が高く、この傾向は前年と同様の結果となっている。一部、長町キャンパスのシャトル便運行増が実施されているほか、駐輪場に屋根を設置することへの具体的検討などが進められているが、今後も学生の満足度を向上させるべく、諸事案の検討を進めていく必要がある。

【設問 4：大学院進学に対する障害】 ※4年生対象

「大学院進学における障害」については、「考えたことがない」と回答したのは工学部で 48.5%（前年比△1.6%）、ライフデザイン学部で 53.8%（前年比△2.8%）と上昇傾向にある。最も障害になったものとして、「学費・生活費の問題」が工学部で 28.2%（前年比△0.7%）、ライフデザイン学部で 21.8%（▼3.7%）と、前年とほぼ同様の結果となった。一方で、「就職」や「学力」を障害と感じている割合が低いことから、将来的には学費に関する諸制度の整備と検討を視野に入れるほか、大学院進学を視野に入れていない層（約半数）への意識づけ（PR）も重要と思われる。